

ホッケー競技の運営、開催後の施設利用状況について研修した。

運営予算措置は、3カ年で計1・2億円、国体を広く市民に周知し、市民参加による魅力あふれる大会とするために、各種媒体を活用し、広報活動を行った。

国体後の施設利用状況は、地元の中学・高校ホッケー部が年間利用の90%を利用し、近郊の大学等が練習や大会に多く利用していた。

釧路市は、生活保護受給者に対する自立支援の先進地である。その特徴は、受給者にさまざまな



ホッケー場の視察 (千葉県いすみ市)

就労支援を実施している点である。市内事業者と連携し、本人の希望をとりながらボランティアへの参加を促し、公園の清掃、動物園のエサやり等さまざまな作業を行っている。

また、高校進学のために中学生に対して大学生がボランティアで学習支援等も行っている。

市としては短絡的な成果を目指すのではなく、受給者の置かれた状態に合わせて少しずつ就労への意欲、社会参加への意欲を涵養することに努めている。全国的にも注目されているこれらの取り組みに、本市でも参考になる点は多く、この視察で学んだことを委員全員で鋭意研究し、今後の本市の政策等に提言していきたい。

## 産業建設委員会

10月7日～9日にかけて北海道江別市、下川町



北海道下川町での視察

の視察研修を行った。江別市では食のまちづくりを通じて、食品関連産業の積極的な設備投資や立地を促進し、市内経済の活性化を目指した。

農・産・学・官で構成された実行委員会が連携して「江別麦の会」を発足し、メンバーは江別産小麦の安定生産と加工方法の開発を目的に「ハルユタカ」の初冬まき技術の研究や普及、パンや麺類向けの加工方法の研究開発などを精力的に行った。小麦の栽培から製粉、さらに麺の製造まで「オーガニック」という点にこだわり取り組んでいた。

また、子ども達の学習に取り入れるなど、斬新なアイデアを盛り込みながら市全体で取り組んでいるのが、最大の特徴である。

下川町はゼロ・エミットション（廃棄物をできるだけ出すことなく資源を有効に活用すること）を進めている。

除間伐事業などから発生する林地残材や河川、道路支障木などの集積及び製造、供給施設として木質原料製造施設を設置している。

チップ状になった原料をポイラーで燃焼させて蓄熱槽からさまざまな公共施設へ熱水を送るエネルギー供給に組み組んでおり、現在では1600万円程度の経費が削減されている。

食や自然を利用したアイデアあふれるまちづくりは、本市でも参考とすべき点が多い、実りある研修であった。

## 編集後記

12月定例会では、議員11人が一般質問を行い、今回の議会日よりページ数も増え、年明け早々から執筆作業に追われました。事務局との原稿のやりとりは、メールで行えるようになり、経費削減と時間短縮が図られるようになりました。

こうした中でも写真だけは現場に向く必要があり、今回は、委員4人で中山地区の「どんと焼き祭り」取材してきました。

当日の朝は冷え込みが一段と厳しく、焚火で暖を取りながら開始を待ち、神事に続き、年男がやぐらに火矢を放ち、勢いよく燃え上がる炎に取材方々無病息災を祈りました。

文責 岡田博助

### 議会広報調査特別委員会

委員長 門田裕一  
副委員長 日野野仁  
委員 岡野猛  
委員 平岡清樹  
委員 三好清  
委員 大野鎮正  
委員 高田浩司  
委員 岡田博助



この印刷物は、E3PAのシルバー基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
E3PA:環境保護印刷推進協議会  
<http://www.e3pa.com>